

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 2021年1月12日

【四半期会計期間】 第23期第3四半期(自 2020年9月1日 至 2020年11月30日)

【会社名】 株式会社エストラスト

【英訳名】 STrust Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松川 徹

【本店の所在の場所】 山口県下関市竹崎町四丁目1番22号

【電話番号】 083-229-1456(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 藤田 尚久

【最寄りの連絡場所】 山口県下関市竹崎町四丁目1番22号

【電話番号】 083-229-3280(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 藤田 尚久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第3四半期 連結累計期間	第23期 第3四半期 連結累計期間	第22期
会計期間	自 2019年3月1日 至 2019年11月30日	自 2020年3月1日 至 2020年11月30日	自 2019年3月1日 至 2020年2月29日
売上高 (百万円)	5,746	10,071	15,233
経常利益又は経常損失() (百万円)	407	266	562
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (百万円)	285	173	385
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	287	173	382
純資産額 (百万円)	5,496	6,191	6,102
総資産額 (百万円)	25,610	31,567	24,950
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	46.58	29.26	63.36
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	21.5	19.6	24.5

回次	第22期 第3四半期 連結会計期間	第23期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年9月1日 至 2019年11月30日	自 2020年9月1日 至 2020年11月30日
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失() (円)	30.54	15.69

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第22期第3四半期連結累計期間においては1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。第22期及び第23期第3四半期連結累計期間においては潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い急速に景況感が悪化しており、今後の動向は極めて不透明な状況が続いております。

当社グループが属する不動産業界におきましては、建築コストの上昇や建設労働者不足、住宅需要の伸び悩みなどから住宅着工戸数は弱含んで推移しており、事業環境の厳しさは強まりつつあります。

このような市場環境の中、新型コロナウイルスの感染症拡大防止に努めながら事業活動を継続しております。

当社の主力事業である不動産分譲事業では、当第3四半期連結累計期間において、収益に大きく寄与する分譲マンションについては、282戸(前年同期比141戸増)の引渡が完了いたしました。山口県において展開する分譲戸建については、35戸(前年同期比3戸増)の引渡となりました。費用面においては、支払手数料などの販売費が増加いたしました。なお、分譲マンションについては、通期引渡予定戸数470戸に対し、既に435戸の契約を締結しており、契約進捗率は92.6%となっております。

以上の結果、売上高は10,071百万円(前年同期比75.3%増)、営業利益は397百万円(前年同期は営業損失281百万円)、経常利益は266百万円(前年同期は経常損失407百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は173百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失285百万円)を計上することとなりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(不動産分譲事業)

不動産分譲事業におきましては、分譲マンション282戸(前年同期比141戸増)、分譲戸建35戸(前年同期比3戸増)の引渡を行いました。また、支払手数料などの販売費が増加いたしました。

以上の結果、売上高9,442百万円(前年同期比105.2%増)、セグメント利益は730百万円(前年同期比973.1%増)となりました。

(不動産管理事業)

不動産管理事業におきましては、当社グループの管理物件が増加し、マンション管理戸数は4,783戸(前年同期比771戸増)となりました。

以上の結果、売上高は361百万円(前年同期比25.6%増)、セグメント利益は93百万円(前年同期比67.6%増)となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業におきましては、当社グループが保有する賃貸用不動産から安定的に収益を確保いたしました。

以上の結果、売上高は160百万円(前年同期比1.5%減)、セグメント利益は92百万円(前年同期比0.5%増)となりました。

(その他)

その他附帯事業として、仕掛販売用不動産の売却等を行った結果、売上高は106百万円(前年同期比84.6%減)、セグメント利益は41百万円(前年同期比24.4%減)となりました。

財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて6,616百万円増加し、31,567百万円となりました。このうち流動資産は、前連結会計年度末に比べて6,653百万円増加し、28,955百万円となり、固定資産は、前連結会計年度末に比べて36百万円減少し、2,611百万円となりました。流動資産の主な増加の要因は、仕掛販売用不動産の増加5,703百万円であり、主な減少の要因は、現金及び預金の減少1,030百万円であります。また、固定資産の主な減少の要因は、減価償却の進捗によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて6,528百万円増加し、25,376百万円となりました。このうち流動負債は、前連結会計年度末に比べて823百万円増加し、15,607百万円となり、固定負債は、前連結会計年度末に比べて5,705百万円増加し、9,768百万円となりました。流動負債の主な増加の要因は、短期借入金の増加1,479百万円であり、主な減少の要因は、支払手形及び買掛金の減少1,597百万円であります。また、固定負債の主な増加の要因は、長期借入金の増加5,337百万円、および社債の増加360百万円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて88百万円増加し、6,191百万円となりました。主な増加の要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が82百万円増加したこととあります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,400,000
計	11,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年1月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,167,000	6,167,000	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数は100株であります。
計	6,167,000	6,167,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年11月30日	-	6,167,000	-	736	-	606

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 240,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,923,500	59,235	-
単元未満株式	普通株式 3,500	-	-
発行済株式総数	6,167,000	-	-
総株主の議決権	-	59,235	-

【自己株式等】

2020年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エストラスト	山口県下関市竹崎町 四丁目1番22号	240,000	-	240,000	3.89
計	-	240,000	-	240,000	3.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年9月1日から2020年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,256	6,226
受取手形及び売掛金	44	126
販売用不動産	4,630	5,987
仕掛販売用不動産	10,141	15,844
その他	230	771
流動資産合計	22,302	28,955
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,209	1,209
減価償却累計額	285	323
建物及び構築物(純額)	924	886
土地	1,294	1,294
その他	76	78
減価償却累計額	45	54
その他(純額)	31	23
有形固定資産合計	2,250	2,204
無形固定資産	1	0
投資その他の資産		
その他	439	447
貸倒引当金	42	41
投資その他の資産合計	396	405
固定資産合計	2,648	2,611
資産合計	24,950	31,567

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,184	1,587
1年内償還予定の社債	140	140
短期借入金	10,364	11,843
未払法人税等	24	32
前受金	567	877
賞与引当金	7	-
株主優待引当金	11	-
その他	483	1,126
流動負債合計	14,784	15,607
固定負債		
社債	560	920
長期借入金	3,236	8,573
退職給付に係る負債	26	25
その他	241	249
固定負債合計	4,063	9,768
負債合計	18,847	25,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	736	736
資本剰余金	606	606
利益剰余金	4,953	5,035
自己株式	189	183
株主資本合計	6,106	6,194
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	2
その他の包括利益累計額合計	3	2
純資産合計	6,102	6,191
負債純資産合計	24,950	31,567

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)
売上高	5,746	10,071
売上原価	4,662	8,179
売上総利益	1,084	1,891
販売費及び一般管理費	1,365	1,494
営業利益又は営業損失()	281	397
営業外収益		
業務受託料	8	5
違約金収入	-	29
その他	7	6
営業外収益合計	15	41
営業外費用		
支払利息	94	125
貸倒引当金繰入額	43	-
その他	4	47
営業外費用合計	141	172
経常利益又は経常損失()	407	266
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	407	266
法人税、住民税及び事業税	31	86
法人税等調整額	153	7
法人税等合計	121	93
四半期純利益又は四半期純損失()	285	173
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	285	173

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	285	173
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
その他の包括利益合計	1	0
四半期包括利益	287	173
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	287	173
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
減価償却費	47百万円	47百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月24日 定時株主総会	普通株式	37	6.00	2019年2月28日	2019年5月27日	利益剰余金
2019年10月11日 取締役会	普通株式	43	7.00	2019年8月31日	2019年11月6日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月27日 定時株主総会	普通株式	41	7.00	2020年2月29日	2020年5月28日	利益剰余金
2020年10月9日 取締役会	普通株式	41	7.00	2020年8月31日	2020年11月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産 分譲事業	不動産 管理事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,601	288	162	5,052	694	5,746	-	5,746
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	19	5	24	-	24	24	-
計	4,601	307	167	5,077	694	5,771	24	5,746
セグメント利益	68	55	91	215	55	270	551	281

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他附帯事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益の調整額 551百万円には、セグメント間取引消去又は振替高 1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 550百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産 分譲事業	不動産 管理事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	9,442	361	160	9,964	106	10,071	-	10,071
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	11	3	15	0	15	15	-
計	9,442	373	163	9,979	106	10,086	15	10,071
セグメント利益	730	93	92	916	41	957	560	397

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その他附帯事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益の調整額 560百万円には、セグメント間取引消去又は振替高 1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 561百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	46円58銭	29円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	285	173
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	285	173
普通株式の期中平均株式数(株)	6,122,038	5,916,127

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前第3四半期連結累計期間においては1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第3四半期連結累計期間においては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第23期（2020年3月1日から2021年2月28日まで）中間配当について、2020年10月9日開催の取締役会において、2020年8月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	41百万円
1株当たりの金額	7円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2020年11月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年1月12日

株式会社 エストラスト
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮本 芳樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 秀敏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エストラストの2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2020年9月1日から2020年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エストラスト及び連結子会社の2020年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。